

す

スムーズに目や手を働かせるために

【発達障害の高校生に対する自立活動事例】

目や手の動きがぎこちなく、板書の写しや聞き取りのメモ書きに時間がかかる生徒に対して

「環境の把握」と「身体の動き」に関連した事例

【投げかけ①】

このペンの動きに合わせて眼球を動かしてみよう。



「**去年**の冬に森の中でサルに出会いました。」
「**赤い**サルは魔法の杖をもっていました。」



【投げかけ②】

2つの短文を続けて聞きます。途中で動物の単語が出たら両手をポンと叩き、聞き終わったら各文の最初の単語を答えてみ

視覚や聴覚による情報処理がスムーズにできるように、眼球の動きをコントロールしたり、短文の聞き取り（ワーキングメモリ）をトレーニングしたりする例があります。

<参考資料>

- ・「ビジョントレーニング（北出勝也著 図書文化）」
- ・「コグトレ〜認知機能強化トレーニング（宮口幸治著 三輪書店）」